

3 研修員の報告及び

研修員受入機関の指導感想



○研修員： グエン・チャン・フオン・チン(ベトナム - ホイアン市)

○研修機関：ホテルニュー長崎

○研修分野：旅行サービス日本語

「長崎で学んだこと、出会った人」

平成30年9月から平成31年2月まで、長崎県海外技術研修員制度のお陰で、ホテルニュー長崎で研修を受けました。ベトナムにいた時、大学で4年間ぐらい日本語を勉強しましたが、日本に来て長い期間住むのは初めてでした。長い期間といっても、私にとって、この6ヶ月は早く経ちました。教科書やインターネットを通してでしか日本のことを知らない私は、今回は実際に日本のこと、日本の文化、日本の高度な技術などを実際に見られ、その幅広い知識を少し勉強出来るようになりました。

日本での生活が始まる時、私は子供のような目でこの新しい世界を見て、何でも素晴らしくて、新鮮でした。ですが、一人暮らしなので、生活に慣れていかないと、困ることになります。実際に困った時は、長崎の人々、近くに住んでいるおばあさん、道の途中で会う知らない人まで、誰でも優しく、できるだけ私を助けてくれました。心からありがとうございました。

日本での最初のレッスンは日本のマナーでした。どちらに住んでも、その国のマナーを守らなければなりません。幸いなことに、ベトナムと日本はどちらもアジアの国なので、文化マナーには多くの類似点があり、守るのは難しくありませんでした。

しかし、ベトナムが解決方法を考えなければならぬことが1つあり、ゴミの出し方です。これはベトナムだけでなく、他の途上国も勉強する必要がある問題だと思います。そして日本は素晴らしい方法で行っています。今まで長崎市のごみ出し方のポスターをまだ自分の部屋に貼っておいて、ベトナムに持って帰る予定です。

9月から11月まで、長崎県庁で素晴らしい先生たちに出会い、日本のマナーだけでなく、日本語も教えてもらいました。私は大学卒業後、3年経っていたので、最初の考えは、授業がもう嫌で、やる気がなかったけど、山中先生と金谷先生2人の先生はとても素晴らしかったです。山中先生はものすごく優しく、絵を描くのも上手でした。金谷先生は、私と同じ年齢で、よく喋って、話し方も面白かったです(でも“絵が上手ではなかった”と告白しました)。日本語は本当に難しく、特に文法と読解の授業に頭が混乱しました。でも先生たちの説明する方法が分かりやすく、例を作るのも素晴らしかったです。お二人のお陰で、去年12月に日本語能力試験N2レベルを合格しました。そして、今では先生とは友達になりました。

ホテルニュー長崎で研修した時、実は最初はとても緊張しました。ホテル・レストラン

の専門知識が全くなく、その時自分の日本語も上手くなかったからです。周りの人たちの話は分かりましたが、返事ができませんでした。自分が世界の外に立っているみたいな感じがあって、友達もできませんでした。でも、ハイドレンジャで研修している途中に、若くて美人の木下さん、岡部さん、そして山下さんに出会いました。

木下さんは前にアルバイトをした時、ベトナム人の友達ができたと、ベトナム語の挨拶などもできます。私はハイドレンジャでの研修の際に、彼女にたくさんお手伝いをしてもらいました。いつでも自分が分からないことを一番簡単な方法で詳しく説明くれました。

岡部さんは、最初に私に声をかけてくれました。親切で、可愛くて、日本人の特徴的な性格を持つ人でした。嬉しいことは、錦茶房に異動した時、私一人ではなく、彼女も一緒に異動しました。そして山下さんは、福島さんの代わりに、私の担当になりました。すごく面白い人、性格がちょっと男っぽいですが、優しかったです。

ハイドレンジャと錦茶房は、管理者以外、ほとんどのスタッフさんは若くて、私より年下の人が多いです。でも彼らの働く姿は本当にプロフェッショナルでした。

私はその時、何も知らなかったので、スタンバイの状態の作業だけしました。テーブルをセットしたり、お水を準備したり、ナプキンを折ったり、お茶を入れたり、裏方の作業をしたりしました。私にとって、その作業は、安全なゾーンになりました。

また、こちらでは、日本語の聴解を練習する良い機会となりました。初めて聞いた言葉だけでなく、長崎弁も少し覚えるようになって

たので、日本人の世界の一部になりました。仕事はそうでしたけど、レストランでは、日本人の精神、日本人の文化、日本人の習慣、日本人の仕事をする態度などたくさん見学できました。

私の研修が長いステップとなるのは、フロントに異動した時からと思います。こちらで、宿泊部の向井次長に会い、自分がやらないといけない仕事をしました。最初は荷物を預かることだけでしたが、次にお部屋までの案内や、ホテルの近くにあるところなども案内出来ました。私の人生で、そんなに熱心で細かい人に出会うことは初めてでした。毎回、向井さんの働く姿を見ると、私とほかのスタッフは“向井さんは本当に熱心ですね”と言いました。

彼はフロント - コンシェルジュの仕事はすごく上手です。私は彼にコンシェルジュの仕事についてたくさんの事を教えてくれました。コンシェルジュの姿、ゲストの要求や質問などに対応する方法はもちろん、コンシェルジュの大切なことは自分自身の知識だと言われました。

仕事だけでなく、生活のアドバイスを私にたくさんくれたのは、フロントの神宮さんでした。彼は、長崎のことだけでなく、日本の各地方についてもよく知っていて、美味しい料理はどこにあるか、観光地にどういう風に行ったら便利か詳しく説明できます。話し方が面白くて、ゲストに15分ぐらいずっとしゃべることを何回も見ました。彼を見ると、私は地元の人が観光客の一番良い案内者ということに気がつきました。将来ベトナムに戻ったら、神宮さんみたいな案内者になりたいなと思いました。

この6ヶ月で、長崎市、長崎県にある有名

な観光地、建物や施設のほとんどを見学しましたし、京都市にも行ってきました。10月末で、紅葉は少し早くて観られませんでしたが、それ以外京都の素晴らしいところをたくさん見学し、京都のいろんな美味しい料理も食べました。

長崎では、ベトナムには全然ない景色を見ました。諫早市のコスモス畑から、野母崎のいい香りがする水仙まつりまで、日本の自然がきれいなことには驚きました。でも一番驚いたのは雲仙地獄でした。人間は自然には適わないと思い、これから自然をもっと守らなければならぬと考えました。

長崎での旅で素晴らしいことは、いつも国際課の田崎さんと研修員のモアシルさんと私3人一緒に出かけたら、その日の天気が晴れるということです。どこに行っても、その前の天候がどんなに悪くても、3人になったら、また晴れます。

この6ヶ月の研修は、今までの私の人生に一番素晴らしいこと経験になりました。ベトナムに戻るとき、私の人生の大きなターニングポイントになるかもしれません。一旦、ホイアン市の仕事に戻ります。こちらで勉強できたことを使って、元の自分よりもっとプロフェッショナルになるために頑張ります。私はホイアン市、クアンナム省、そして可能であればベトナムさえも発展させるために貢献したいと思います。小さいことから大きいことまで、熱心な向井次長みたいな人になれるように努力します。さらに、ベトナム-日本、そしてクアンナム省-長崎県の友好関係に少しでも関わるができるように頑張ります。

もちろん、自分はまだ若いので、これからほかの体験もしたいですが、長崎で出会った

人々、長崎の思い出はいつまでも忘れたくなく、忘れられないことになりました。



ホテルニュー長崎のロビー



お客様をご案内



憧れの制服



長崎のお祭り「長崎くんち」



ベトナムの料理を紹介しました

○研修機関：ホテルニュー長崎（長崎市大黒町 14-5）

○指導員： 料飲部 課長代理 福島 浩子
（受入研修員：グエン・チャン・フォン・チン）



「気遣いと優しさあふれるベトナム美人」

ホテルニュー長崎での研修で最初に受け入れた部署は「ハイドレンジャ」というフレンチレストランです。チンさんは日本語も良く理解し、スタッフと会話するには問題ありませんでしたが、まずはホテルでの接客用語を学ぶことが第一で、お客様への接客業務は後半に少し携わってもらいました。

研修内容は、主にレストランのオープン前のスタンバイを中心に、お客様へ提供する料理を運んだり、お客様が帰られた後のテーブルをリセットしたりすることをメインとしました。

本格的なフランス料理を提供するレストランであり、サービス方法は厳しく、当ホテルのスタッフでも下積み業務からスタートし、オーダーテイクや料理説明などは半年以上従事して、認められた者のみ接客することが許されます。新入社員が厳しく指導を受けている中、チンさんにはお客様の動きとスタッフの動きを観察し、ホール全体の状況を把握してもらいましたが、その洞察力に驚かされることがしばしばありました。

サービススタッフが次にどのように動くか、何を求めているのかを察知し、周りがして欲しいことを先読みし動くことができます。ホテルスタッフの中でもなかなか簡単にはできません。

「ハイドレンジャ」での研修期間が2ヵ月と短く、接客業務を十分に体験できなかったものの、日本料理のレストラン「錦茶房」では、チンさん本人の希望により 着物での接

客を体験。「ハイドレンジャ」ではパンツスタイルだったため、カッコいい姿を披露したかと思えば、着物では女性らしい姿を披露。着くずれすることなくきちんと着付けされており感心させられました。

フランス料理と日本料理のスタイルの違いがチンさんの目にどう映ったのか、気になるところです。

フロントサービスでの研修は、スタッフの中に普通に溶け込んでいる姿を見てひと安心しました。レストランに比べ、フロントでは多国籍のお客様が多く、英語での会話も必要であり、一番語学力を発揮でき、やりがいを感じられた部署ではないでしょうか。研修部署が変更の度に、制服・ヘアスタイルが変わり、別人のようで見て楽しく思いました。

また、メールで連絡を取り合った際、日本語での返信が早いことに驚かされました。慣れない生活の中、不安そうな顔は見たことがなく、仕事も問題なくこなしているチンさん。研修部署3ヵ所全てのスタッフより、研修終了を惜しまれることとなりました。

チンさんの、たくさんのことを勉強したい！という気持ちが伝わってきて、周りの人にも気力をもらったような気がします。京都旅行や長崎のくんちなど、日本の情緒や歴史に触れ、今後ガイドを続けて行く中で日本の文化を発信していただけたらと思います。



コンシェルジュでの勤務



ホテルスタッフとフロントにて



フロントにて

研修員：鶴澤 モアシル まさいち（ブラジル連邦共和国サンパウロ市）

研修機関：長崎県環境保健研究センター

研修分野：環境教育、樹木大気浄化能力



「長崎で環境について学ぶ！」

1. はじめに

鶴澤モアシルまさいちと申します、ブラジルのサンパウロ市で1990年に生まれました。私は日系人三世です。私の日本人の祖父母が子供の頃、第二次世界大戦の危険性があるため、1930年代に家族と一緒にブラジルに行きました。大人になってから、彼らはサンパウロで出会い、結婚して7人の子供が生まれました。私の父は7人の兄弟の中で最年少です。

私の子供の頃、自分の家族(父、母、妹、日本人の祖母と私)と一緒に、約3年間(1997～2000)三重県鈴鹿市に住んでいました。その時に私は日本の学校で勉強し、奈良県や愛知県、千葉県などを訪れました。

2. ブラジルでの日本の文化活動

私は10歳でブラジルに戻り、それ以来日本の文化から遠ざかったことは一度もありません。私はサンパウロ市で毎年行われる「日本の祭り」や「桜の祭り」のような日本の文化の伝統的な祭りに参加しています。私は頻繁に‘Liberdade’地区を訪れて、アジアの伝統と文化に触れています。

ブラジルで、私はSuely Shiba先生の墨絵講座に参加しました。会社では自然保護の重要性や紙の再利用についての意識を高めることを目的として、海の動物の折り紙ワークショップを子供たちやお年寄りの方に指導しています。私は日本のポップカルチャーのファンで、アニメ、エレクトロニックミュージック、ゲーム、そしてコスプレが好きです。

サンパウロ市の長崎県人会では、たくさんの練習をつんで、龍踊りに参加しました。主なものは、2018年の「日本の祭り」のメインステージでした。私は、龍の腹の5番目の位置を受け持ち

ました。龍踊りの最も興味深い点は、同期性とチームワークです。

3. ブラジルの仕事の概要

私はサンパウロ市の公衆衛生サービスを受託している、CEJAM (Dr. Joao Amorim 調査研究センター)と言う会社で環境教育を担当しています。サンパウロ市の環境教育は、廃棄物管理、水・空気と土壌の保全、生物多様性の保全、植林、空間の活性化、野菜園、健康食品のことなどを含む環境計画に基づいて行われています。

私の主なプロジェクトには、固形廃棄物の再利用、コミュニティでの有機野菜園づくりと維持、環境イベント、有害廃棄物の収集と生態学的に正しい行き先、他の専門家の訓練、新しい職員の訓練および部門間パートナーシップがあります。

4. 日本語研修

2017年に私は家で日本語の勉強を始め、本や辞書を買ったり、文法、読書、書道や漢字に関するモバイルアプリケーションをダウンロードしました。私はインターネットを通して授業に参加しました。私は約1年間日本語を勉強しました。

2018年4月に長崎県人会の推薦を受け、長崎県海外技術研修員として、6ヶ月間、長崎で研修を受けることとなりました。

2018年8月31日、長崎に着いたとき、とても好ましい印象を受けました。郷愁が私をひきつけました。

空港で迎えてくださった田崎さんをはじめ、国際課の皆様はとても優しく親切でした。

県庁で副知事さんと中崎部長さんにご挨拶したあと、ベトナムからの研修生のチンさんと一緒に

に、基本研修を受けました。山中先生と金谷先生が、ビジネスルールや電子メールの書き方、電話の仕方などについて教えてくださいました。また日本語の文法、読解力、そして聴解力の授業も受けました。お二人のおかげで私の日本語のレベルがあがりました。

県庁での日本語研修のあと、私が住んでいた大村市では、毎週木曜日、大村市国際交流プラザで無料の日本語講座に参加しました。授業は海外の学生のためのものでした。4ヶ月の間に、私は1人のベトナム人、1人の中国人、1人のスウェーデン人および6人のミャンマー人とともに、石橋先生から指導を受けました。会話を練習するのは面白かったです。

5. 環境部での専門研修

5.1 県庁の研修

10月のおくち後の3日間、私は、県庁で日本と長崎の環境法や環境部の仕事について説明を受けました。閉鎖性水域の保全にかかる行動計画、環境活動指導者養成講座、循環型社会の推進、生物多様性の保全、自然保護活動や未来環境班の仕事について学びました。

田中参事、県庁の環境部の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

5.2 長崎大学環境フィールドスクール

10月から12月まで3回の研修に参加して、長崎大学環境科学部の馬越先生の指導のもと、学生さんと一緒に雲仙、島原、小浜地域の文化、歴史と環境のことを学びました。

小浜では、温泉のエネルギーを活用していることを学びました。

馬越先生、渡辺先生、お世話になりました。

5.3 環境保健研究センターでの研修

受入機関である環境保健研究センターでの研修は、9月12日から始まりました。環保研は、私を魅了しました。山の上の場所、光や風を取

り入れる建物の構造や太陽光パネルなどの環境配慮設備。そこで行われている環境や保健に関する研究。

企画環境研究部の15名の研究者らは私に次のように研究のあらましを説明してくれました。古賀さんと斎藤さんの研究について、現在絶滅の危機に瀕している対馬の固有種である *Prionailurus bengalensis euptilurus* (ツシヤマネコ)の保護。橋本さん、前田さん、田中さん、柴田さんによる酸性雨、PM2.5と放射線の監視と予防計画。本多さんによる大村湾の水質の分析と監視。桑岡さんと前田さんによる諫早流域の水質改善。粕谷さんの植物プランクトンろ過のための二枚貝類の使用。矢野さんが福島から長崎に輸出した魚に含まれる放射線監視。Etc。

9月27日には機会をつくってもらって、ブラジルの環境問題を取り上げながら、サンパウロ市での環境教育者としての私の仕事を紹介しました。

5.4 環境保健研究センターの一般公開

11月10日に環境保健研究センターの一般公開が行われ、308名の参加がありました。私は「すごいね葉っぱ！」と言うコーナーで葉っぱの世界のいろんな説明をしました。例えば、顕微鏡でツバキの維管束とツユクサの気孔の観察の活動を指導しました。

このイベントはブラジルでやっている仕事とよく似ていました。

5.5 エコロジーパークの樹木の大気浄化能力の推定

私自身の主体的な研修のテーマとして、6ヶ月間、このことに取り組みました。環保研には300本の木が生えていることを確認し、そのうち229本の樹種名を確認して名札をつけました。

300本すべての木の幹の太さを測ることで葉

の面積を推計し、それをもとに環保研のすべての樹木が吸収する二酸化炭素の量を推定しました。

計算は、Microsoft Excel に式を入力して行いました。

その結果は、62,908kg でした。この値を、一人の人間が呼吸によって 1 年間に吐き出す二酸化炭素の量(360kg)と比較すると、174 人分となりましたが、環保研の 1 年間の電気使用量から求めた二酸化炭素排出量と比較すると、およそ 1/5 となりました。つまり、環保研が排出する二酸化炭素をすべて吸収するには、少なくとも木の量を 5 倍に増やすことが必要ということが分かりました。

この結果をまとめて、2 月に開催された環保研の研究発表会で発表しました。

私が手がけた木の名札や浄化能力の推定結果を、環保研でのこれからの環境教育に生かしてもらえばうれしく思います。

5.6 県外研修

5.6.1 まもる〜む

福岡市のまもる〜むと言う施設で環境教育者と話したり、どうやって子どもたちに環境のことを説明するかを考えたり、そして日本の外来種(植物と動物)の問題を勉強しました。

5.6.2 北九州市

1月10日と11日に、県外研修として、北九州市に出張しました。

いのちのたび博物館では、地質学、古生物学(先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代)、動物学、生態学を学ぶことができました。私はまた、いのちのたび博物館で、日本の時代区分について学びました。縄文時代から現在までの日本の歴史や北九州市の文化の勉強をしました。

北九州市環境ミュージアムで、市の環境史を学びました。1960年代、大気や水域が大量の汚染物質で汚染されていた北九州市は、今日、持続可能性、環境教育、グリーンエネルギー生産、廃棄物管理、環境保全の分野で世界的に有名です。私たちは持続可能性について勉強をするために、エコハウスに行きました。北九州イノベーションギャラリーへも行きました。

11日には、北九州市役所展示コーナーで森部長が環境法律や条例を説明してくれて、持続可能な開発のタイムラインと北九州市の環境面での成果について学びました。

5.7 佐世保市の森きらら動物園と海きらら水族館

佐世保市の森きらら動物園で、さまざまな動物を観察し、ツシマヤマネコの飼育の試みを学びました。

海きらら水族館ではさまざまなインタラクティブな活動を提供しており、帰国後子供たちに楽しい方法で水環境学を教えるための参考となりました。

5.8 ペンギン水族館

長崎市のペンギン水族館に行きました。ペンギンは、私が最も興味を持つ生物の一つです。展示によるとペンギンは環境によく適応していて、速い個体は時速30キロで泳ぐそうです。ペンギンはSphenisciformes目に属しており、18の種があります。これら18種は南極、ニュージーランド、オーストラリア、南アメリカ、アフリカに分布しています。長崎ペンギン水族館には世界の半分の9種が飼育されています。私は水族館で異なる種の行動を観察しました。

解剖学的には、ペンギンは水泳のために使用されている流体力学的な体、萎縮した翼を持っています。それらは保護のために目を覆っている膜、体の塩をろ過するための眼窩上腺と

肌を防水するために油を分泌します。足は陸上で移動するために使用され、水泳中には、それはステアリングとブレーキ機能を持っています。尾はバランスをとります。背側が暗い一方で腹側の部分は明色です。カモフラージュ(迷彩)を使って獲物と捕食者を混乱させます。

一般に、飼料は魚、頭足類、オキアミで構成されています。ペンギンの海洋捕食者はシャチとアザラシです。ペンギンの卵と子を餌にする鳥もいます。キツネもペンギンの捕食者です。

専門的には、遊び心のある、そしてインタラクティブな展示が私の将来の環境教育計画を触発する最大の収穫でした。素晴らしい経験でした。

5.9 五島と対馬

12月のはじめに、環境保健研究センターの柴田さんの業務である、五島の放射線モニタリングステーションのメンテナンスに同行しました。放射線レベルを監視し、予防策を確立すること(もし、事故が発生したら)は、公共の安全と生活の質のために大事です。

1月の末には、対馬で酸性雨の監視の勉強をするために、環境保健研究センターの橋本さんと前田さんと一緒に対馬へ行きました。降雨収集ステーションは上見坂公園にあり、ステーションは、気象条件、風の方向と度、雨の量、放射線、大気中のオゾンを監視し、実験室での分析のために雨水を収集します。建物内の温度は一定に保たれています。保守業者の松尾さんから、年1回行われる回収管の交換、デジタルおよび機械的なデータ保存、雨水回収ポンプの運転について説明を受けました。上見坂公園展望台にも行きました。

対馬では時間があつたので、午後、対馬野生生物保護センターに行きました。環境教育の勉強になりました。絶滅の危機に瀕している固

有種であるツシマヤマネコの保全について、訪問者や地域社会の意識を高めるための素晴らしい取り組みが行われています。センターでツシマヤマネコについての利用可能なすべての情報を見つけることが可能です。食物連鎖、習慣やライフスタイル、形態学的特徴、ツシマヤマネコを脅かすものについての情報があります。現在、この種の個体数減少の主な原因は交通事故です。

6. 環境関連の活動

6.1 山登り

私は日本に来る前に、サンパウロでトレッキングと登山をしていました。環境保健研究センターで、矢野さんと出会いました。彼は頻繁に山に登り、私を彼の冒険に導きました。私たちは阿蘇山(熊本県)、由布岳(大分県)、普賢岳冬・秋(雲仙市)と一緒に登りました。

森部長と一緒に五家原岳(大村市・諫早市)と経ヶ岳(諫早市)も登りました。

6.2 ボランティア

10月、上五島町の家ゴミSOSという活動に参加して、二日間前田さんと橋本さんと一緒に海岸の家ゴミを片付けました。

矢野さんと一緒に、雲仙のミヤマキリシマの保全のために邪魔になるつるを伐採する活動にも参加しました。

このように、環境保健研究センターの皆さんと、環境についてさまざまなことを学び、活動することができました。森部長、環境保健研究センターの皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

7. 長崎、日本の文化

7.1 長崎

9月の基本研修の最後に、田崎さんが、チンさんと私を稲佐山の展望台、諏訪神社、中華街、

軍艦島に連れて行ってくださいました。長崎の歴史を知ることができました。

このほか、国際課のお世話で長崎くんちのダンスパフォーマンスを見る機会がありました。間違いなく素晴らしい経験でした。長崎の文化や歴史について学ぶことができました。

国際課の県内視察研修では、雲仙地域の歴史や文化、宗教、環境を学びました。10月17日、私たちは島原で午前中に武家屋敷(Matsumoto's House)と鯉の泳ぐ町と四明荘へ行きました。そのあと、雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)へ行きました。

午後は、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のひとつである原城跡を訪れました。有馬キリシタン遺産記念館にも行きました。

18日は地元のガイドの佐々木さんが高さ約5メートルの金色の仏像がある雲仙山満明寺を案内してくださいました。国立雲仙公園では、生物多様性について、私はシロドウダン、ネジキ、シャシャンボ、ミヤマキリシマ、ジョウビタキを見ました。多くの猫もいました。ロープウェイで妙見岳(1,333m)に行きました。それから、小浜に行って、小浜町歴史博物館を訪問して、足湯をして、カステラランドに寄って、県庁に帰りました。私たちはたくさんのことを学び、豊かな経験になりました。

1月4日には、田崎さんと、森部長と私の三人で、書初め体験をしたあと、国宝大浦天主堂とグラバー園に行きました。

長崎ランタンフェスティバルはただただ美しいと思いました。江戸時代に長崎に住んでいた中国人が中国の新年を祝うために持ってきた龍踊りを見ることができました。

このほか、田崎さんは休日に私とチンさんを誘って、あちこちに連れて行ってくださいました。秋

には白木峰にコスモスを、冬には野母崎に、美しいスイセンを見に行きました。スイセンの花のすごい香りを絶対忘れません。

田崎さん、チンさんと私の三人で会うときは、ほぼ100%いい天気か太陽の光がありました。三人でたくさん笑って楽しいひと時を過ごしました。

7.2 日本の文化

12月の末に、環境保健研究センターの山登りの友人、矢野さんが門松つくりのワークショップに誘ってくださいました。門松の竹の根元をロープで巻き、装飾しました。乾燥したイネのくき(ワラ)でロープを作る技術を学びました。門松の意味は、お正月の神様を自分の家に迎え入れる目印にすることです。

日本文化の伝統であり、チームワークと団結を象徴するもちつきも参加しました。その意味は幸運をもたらすことです。まず、もち米を炊き、それから大きな木のハンマー(杵)で均質な塊になるまで搗きます。この塊をちぎってもちの形に丸めました。

8. さいごに

そのほかにも様々な体験をすることができました。お世話になりました。すべての方に感謝します。

この研修は私の人生で最高の経験のひとつでした。これからも日本の文化を賞賛し広めていきます。

この研修で学んだことを、サンパウロの長崎県人会や日系人に伝え、ブラジルの環境などに生かしたいです。

皆様がブラジルに来る時は、連絡してください。私が案内します。

ブラジルで日本語の勉強を続けます。

どこでも自然を絶対、守ります。



熊本県阿蘇中岳山頂で。左側から、矢野さん、鳥山さん、寺田さん。



上五島のごみ拾いのボランティア活動。左側から、前田さん、橋本さん。



福岡市のまもる～むで環境教育を勉強



平成 31 年 02 月 21 日、環境保健研究センターの送別会



コスモスを見に行ったとき。左側から、チンさん、田崎さん。

○研修機関：長崎県環境保健研究センター
(大村市池田2丁目1306番地11)

○指導員：企画環境研究部 部長 森 淳子
(受入研修員：鶴澤 モアシル まさいち)



「サンパウロでのご活躍を！」

ブラジル、サンパウロ市在住の日系三世の鶴澤モアシルまさいちさんは、サンパウロ市の公衆衛生サービスを受託している民間会社に所属し、日本の保健所のような事務所で環境教育の指導者として働いています。こちらに来られて間もなく、ブラジルでのお仕事の内容についてセンターの職員を対象にスライドで説明してもらったところ、ゴミで不衛生になっているところを清掃し、捨てられていた廃タイヤで花壇などを再生、生ゴミから作った堆肥でビタミン豊富な野菜を作って食べてもらう、樹木が持つ環境保全機能を学んでもらう、捨てられた犬ネコの里親探しの活動など、大活躍の様子でした。

以前は別の仕事をしていたのですが、働きながら大学に通い、生物学を学ばれたそうで、大学の先生の影響もあり、一時はベジタリアンになったほど、環境の保全や動物愛護に対する意識が高い方でした。

今回、ご自身の環境教育の改善をしたいということで、環境部に受け入れのお話がありましたが、正直当センターで6ヶ月もの期間、外国の方を受け入れるのは、はるか以前に1回あったきりで、どのような研修計画を立てるのか大変悩みました。そこで、県内、県外の環境関連施設での視察等の可能性を確認し、センターの企画環境研究部の職員には、可能な範囲で業務に関わらせてもらうことをお願いし、大学や行政で、出来る範囲でのご対応をお願いしました。そのような受身の

研修のほか、研究所らしく、主体的にテーマに取り組んでもらおうということで、センターの庭に生えている樹木の同定と、浄化能力を調べてもらうこととしました。

日本語に関しては、子どものとき親御さんの仕事の関係で数年間、日本の小学校に通ったということで、日常的な会話にはほぼ支障ありませんでした。しかし、漢字を読むことは相当困難なようで、こちらが用意した資料を理解するのにかなりの時間とエネルギーを要するようでした。いまだきらしく、スマートフォンで日本語を撮影すると瞬時にポルトガル語に訳するアプリなどを駆使しながらの研修生活でしたが、いかんせん、アプリはアプリ。ポルトガル語を翻訳しても自然な日本語にはほど遠く、ご自身の自信とは裏腹にかなりもどかしい思いをされたようです。

研修期間中の11月10日(土)は当センターの一般公開でしたので、そこへ樹木の大气浄化能を知っていただくブースの出展をしました。本人にとっても、子どもたちや一般のみなさんへ環境教育を行う、貴重な機会でした。

2月には、例年当センターの研究発表会を行っていますので、鶴澤さんの研修の成果をそこで発表いただくようにしました。

研修の終盤はそこへ向けて追い込み状態でしたが、なんとか発表会にも対応でき、ほっとしています。

わからない、ブラジルでのやり方と違う、難しい、からスタートした研修で、自分のことで精いっぱいであったかもしれません。しかし、最終レポートをまとめながら、この研修そのものが成り立ったことや周りを見渡すことに気づくことが鶴澤さん自身の成長につながったのではないかと考えています。

この研修を通じて、長崎の自然環境のみならず、日本の文化や伝統について、改めて見直す機会にもなりました。森羅万象を大切に思い、折々の季節の移ろいに折り合い、楽しむ精神が、日本人には脈々と流れているのだと思います。

このような日本の心を、是非ブラジルに持ち帰り、鶴澤さんの今後と、サンパウロの環境改善に少しでも役に立ててもらえればと思っています。

最後になりましたが、今回の受け入れについて、ご理解、ご協力をいただいたすべてのみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。



<業務支援>国設対馬酸性雨局保守管理



<所外研修>諫早青少年自然の家主催五家原岳登山



<主体研修>センター一般公開でのブース出展



<県外研修>北九州市環境ミュージアム視察